



Title	臨床哲学 第18号 編集後記
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2016, 18, p. 215-215
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60600
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

編集担当者の中で、高原耕平さんの原稿「小さなもの」を「論文」と見なすかどうかが議論になった。形式上、論文とは言えないので「エッセー」もしくは「哲学エッセー」という扱いにしてはどうか、という意見もあった。しかし本人の意向、そして『臨床哲学』という媒体の性格を考え、あえて「論文」として掲載、執筆者による「補記」も加えてもらった。また今回は掲載を見送ったが、エッセー（＝試み）として鷺田清一を批判する文章も寄稿された。

雑誌『臨床哲学』は学術雑誌であると同時に、哲学の新しい挑戦・試みの場でもある。寄稿者はそのためにこの媒体を活用して欲しいし、編集側としてもその意気に柔軟に応えたい。今回 18 号の編集過程で、そう思った。（堀江）